

令和元年度 東商エコリーグ 事業報告書

令和2年6月

■事業概況：

<全体傾向(平成31年4月1日～令和2年3月31日)>

令和2年3月末現在の参加事業者数は、1,908件で対前年度比+214件(+約13%)に増加した。参加事業者数は6年連続で増加傾向にある。

年間回収量は、約1,291トンで、対前年度比は約+13トン(+約1%)と増加した。参加事業所数の伸び率に対して、年間回収量の増加率は低く、ここ数年来顕著になってきた古紙市場の回収量減少傾向がそのまま表れた結果となった。

参加事業所数・回収量の増減傾向は各地区各様であるが、事業所数は全10地区中4地区が増加で2年連続同数であった。回収量では、全10地区中7区が減少した結果となった。

<地域別傾向>

参加事業所数増加区は、港(+3社)、墨田(+3社)、世田谷(+218社)、北(+3社)の4地区で昨年と同数であった。一方、減少区は、新宿(-7社)、大田区(-1社)、荒川(-1社)、渋谷(-4社)の4区で昨年と同数であった。

回収量の増加区は墨田(+約11トン)、世田谷(+約30トン)、北(+約5トン)でいずれも参加事業所増によるものとみられる結果となった。

<所感>

当年度は、参加事業所数は大きく増えたものの、回収量は微増にとどまった。昨今古紙市場では洋紙部門の発生減が続いており、本事業の回収実績も同様の傾向を示している。

古紙の市場環境は、中国の古紙輸入量の規制に端を発した、古紙余剰-価格の暴落等で深刻化を極めている。令和2年1月には回収事業者団体の東京都資源回収事業協同組合が集団回収非常事態宣言を発する等、古紙価格が回収コストを大きく割り込む事態に陥り、長期化の様相を呈しており、回収事業者のみならず古紙問屋の経営環境を大きく圧迫している。

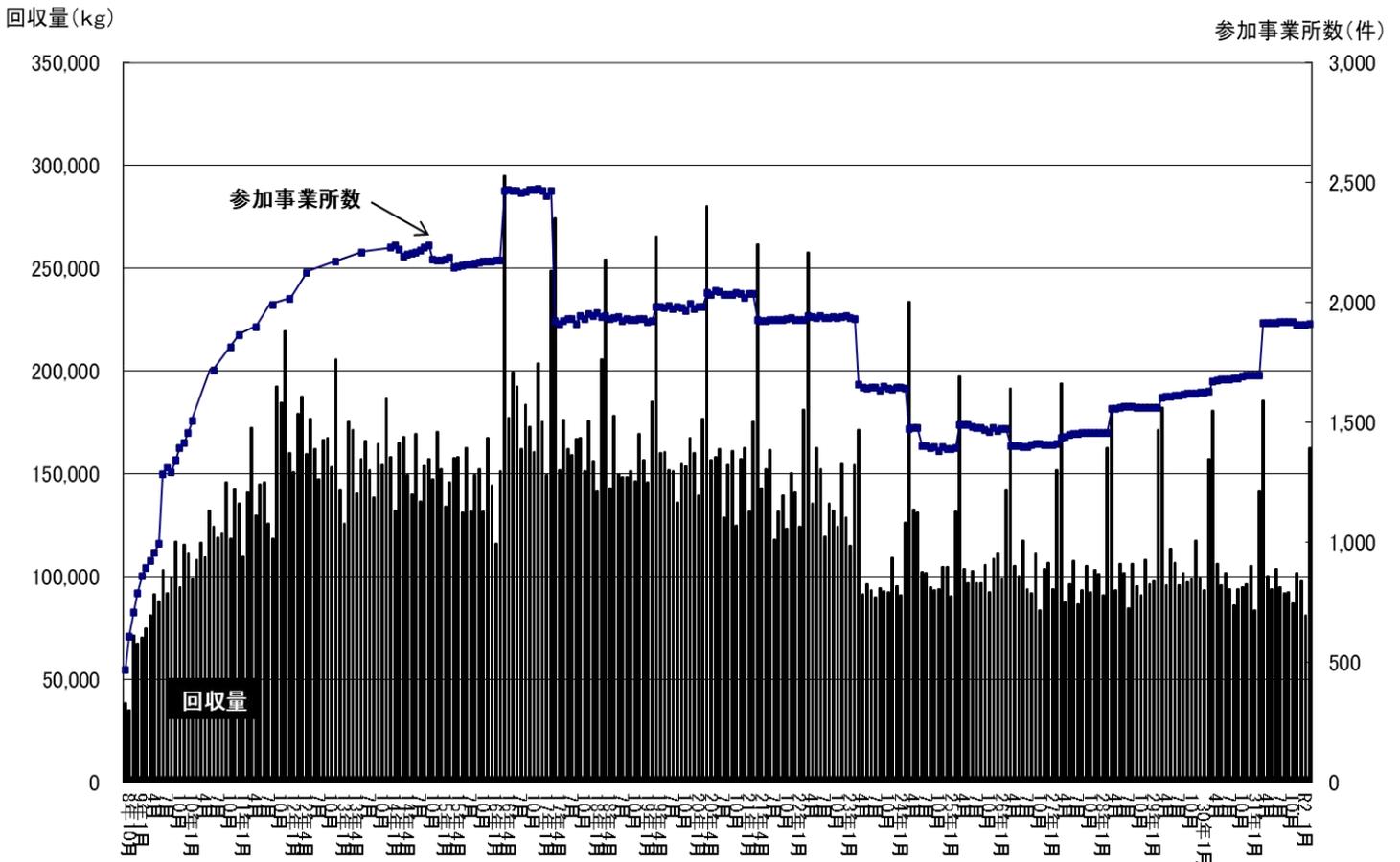
このため、当年度は、3地区(港・新宿・渋谷)において事業継続のためにやむなく回収料金の値上げ措置がとられた。また1地区(江東)では、これ以上不採算赤字回収の事業継続は困難であるとの判断から、年度当初から後継事業者を当たる等の取り組みはしたものの、既に業界全体が経営悪化の波に飲み込まれており、事業終了の検討に入らざるを得なかった。

古紙リサイクル事業成立の基幹的要素は、古紙の質の確保(分別の徹底)、適正価格の維持、回収量の確保、需要の確保等に集約される。東商エコリーグはこれまで小規模ロットを数量でカバーし維持してきたが、今後は排出事業者に分別の徹底依頼を強化するのはもとより、紙袋排出システム等の地区においては経費削減につながる新たなシステムを検討する、行政との連携により東商エコリーグ利用事業者の拡大等々、厳しい環境下だからこそ、関係機関の知恵を出し合いと連携によって、小規模事業所のリサイクル促進の気運を損なわないようにしていきたい。

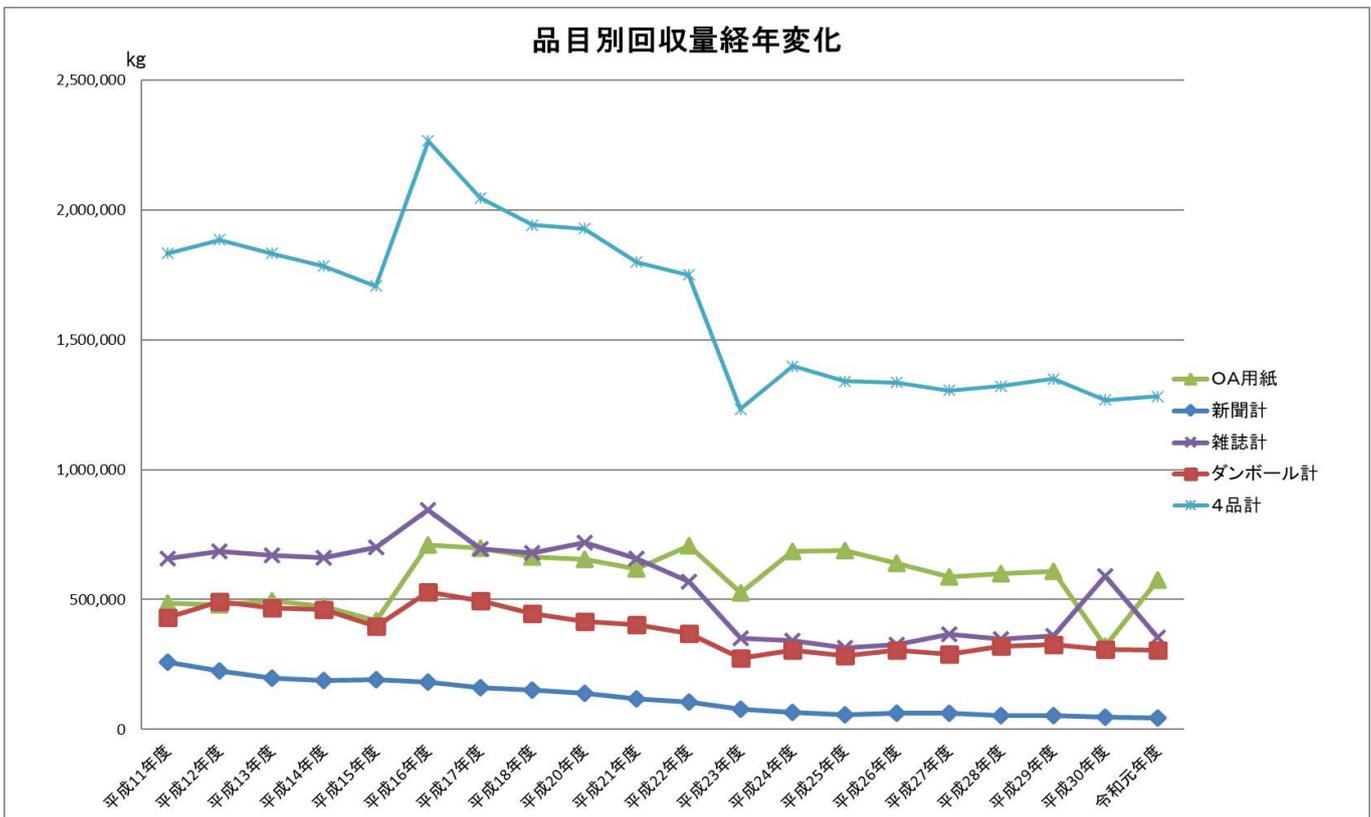
報告書作成：東リ協会(公益社団法人東京都リサイクル事業協会)IBR団連(東京都リサイクル事業団体連合会)

〒111-0055 東京都台東区三筋 2-3-9-701 TEL:03-5833-1030 FAX:03-5833-1040

■回収量と参加事業所数の推移

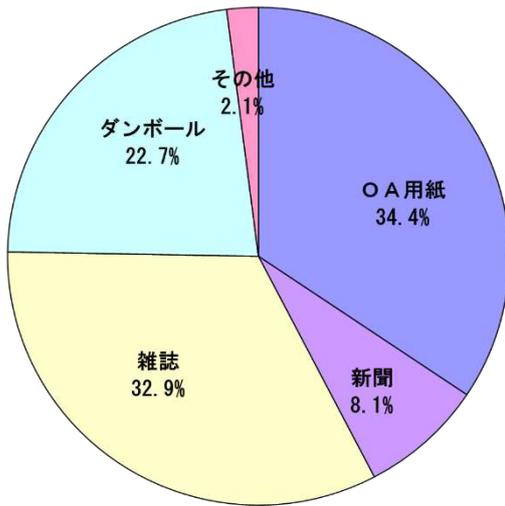


■品目別回収量経年変化



■回収古紙別割合(平成8年10月～令和2年3月)

東商エコーグ 回収古紙別割合 (平成8年10月～令和2年3月)



過去23年間の古紙回収実績から、回収古紙別の割合で最も多いのは、雑誌、コピー用紙及び連続用紙などのOA用紙等が全体の約8割(75.4%)を占めている。OA用紙(34.4%)・雑誌(32.9%)。

ついで段ボールなどの梱包材が約2割(22.7%)、新聞古紙が約1割(8.1%)の組成となっている。

■古紙価格の推移

